

COVID-19 パンデミック下においても マスクを正しく使用している者は少ない

～マスクマネジメントに関するさらなる啓発が求められている～

—COVID-19 アウトブレイク時における一般市民の予防行動に関する研究結果④—

【概要】

- 2020年4月1日に日本人男女2,141人を対象にインターネット調査を実施しました。
- WHOが推奨している使い捨てマスクに関する7つの正しい使い方（マスクマネジメント）の遵守率は38.3%から83.5%で、すべて実践している者は23.1%のみでした。
- マスクの誤った使用は、自分が感染するリスクや感染を広げてしまうリスクを招くため、正しい使用方法：マスクマネジメントについてのさらなる普及・啓発が必要です。

東京医科大学公衆衛生学分野の町田征己らは、関東地方在住の20-79歳の男女2,141人を対象に、新型コロナウイルス感染症アウトブレイク時における一般市民の予防に関する考えと行動に関するインターネット調査を2020年4月1日に実施しました。[その研究成果が2020年9月6日に国際医学雑誌 International Journal of Environmental Research and Public Health オンライン版](#)で発表されました。

【研究内容の要約】

新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が出される直前であった2020年4月1日に、関東地方在住の20歳から79歳の男女2,141人に予防に関する意識や実施状況に関するアンケート調査を行いました。この中で、マスクの着用状況、およびWHOが推奨している使い捨てマスク（不織布マスク）に関する7つの正しい使い方（マスクマネジメント：①隙間が出来ないように鼻と口を覆う、②使用中はマスクの表面に触れない、③外すときは表面を触らずに紐部分を持って外す、④マスクを外した後や表面を触ってしまった後は手を洗う、⑤マスクが湿ったら交換する、⑥使い捨てマスクを再利用しない、⑦使い捨てマスクは外したら捨てる）の実施状況を回答してもらいました。

調査の結果、マスクの着用率は80.9%でした。しかし、正しい使用方法についての遵守率は、「隙間が出来ないように鼻と口の両方を覆う」が83.5%と比較的高い値でしたが、その他の項目の遵守率は38.3%から62.9%のみで、7つのマスクマネジメントをすべて実践している人はわずか23.1%のみでした。また、男性及び世帯年収が少ない方にマスクの正しい使用が出来ていない方が多いこともわかりました。

マスクの誤った使用方法は、マスクの予防効果を下げるだけでなく、却って自分が感染するリスクや感染を広げてしまうリスクを高めてしまう可能性があります。マスク着用を推

奨励する上では、マスクマネジメントについても広く知って頂くことが重要です。

一方で、これらの推奨項目は元々医療機関で使用することを想定して作られたガイドラインを応用したものであり、日常生活での使用は十分に想定されていません。また、最近では使い捨てマスクだけでなく、布マスクやマウスシールド、ネックゲイターなどの様々なマスクやそれに類似するものが普及しています。これらに対応した日常生活で無理なく実践できる正しい使用方法について検討し、啓発することも今後の課題と考えられます。

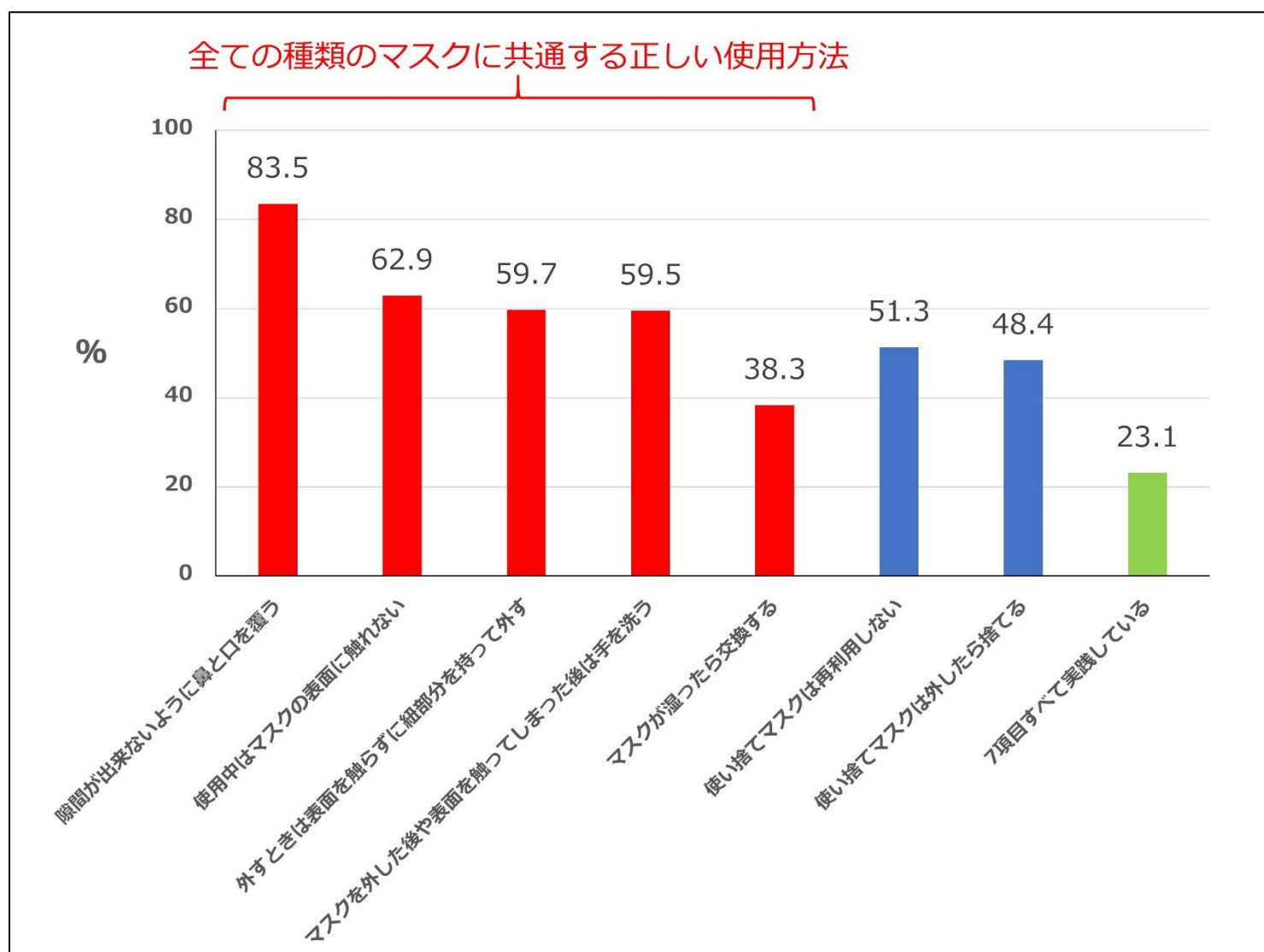


図. 使い捨てマスクの正しい使用方法（マスクマネジメント）の遵守率

写真：マスクの誤った使用方法による汚染の例：顎にマスクをずらした場合

※緑の塗料を用いてマスク表面のウイルス等による汚染を表現しています。



・顎から首にかけて広範囲にマスク表面のウイルス等による汚染が広がっています。

・再度マスクを顎にずらすと、これらの汚染がマスク内面にも広がる恐れがあります。



・マスクを手でずらしたことで指先にもマスク表面の汚染が広がっています。

・この状態で手を洗わないと、様々な物や人にウイルスを広げてしまう恐れがあります。

マスクの表面は触らない、ずらさないことが大切です。

論文情報

掲載紙： International Journal of Environmental Research and Public Health

論文名： Incorrect use of face masks during the current COVID-19 pandemic among the general public in Japan

著者名： 町田 征己、中村 造、齋藤 玲子、中谷 友樹、埴淵 知哉、高宮 朋子、小田切 優子、福島 教照、菊池 宏幸、天笠 志保、小島 多香子、渡邊 秀裕、井上 茂

DOI： 10.3390/ijerph17186484 （査読済み）

【問い合わせ先】

東京医科大学 公衆衛生学分野 氏名: 町田 征己、井上 茂

E-mail: TMUPHIC.2020@gmail.com

その他の新型コロナウイルス感染症に関する当分野の研究結果

[研究結果①：感染予防行動のうち「目鼻口に触らない」の実施率が最も低い](#)

[研究結果②：予防行動に関する行動変容は男性と低所得者で少ない](#)

[研究結果③：COVID-19 アウトブレイク下において 風邪症状のある労働者の多くが十分に自主隔離できていない](#)